

第3回泉佐野丘陵緑地運営会議 議事録

日時 平成23年9月29日(木) 10:00~12:15

場所 新別館北館4階 職員会議室7・8

◆出席委員(敬称略)

大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 教授 増田昇(委員長)

元大阪府立大学大学院 教授 前中久行

大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 准教授 下村泰彦

大阪市立大学大学院 工学研究科 准教授 嘉名光市

大阪ガス株式会社 エネルギー・文化研究所(CEL) 特任研究員 弘本由香里

うみべの森を育てる会 代表 西台幸子

泉佐野丘陵緑地パーククラブ 会長 殿元日出夫

泉佐野丘陵緑地パーククラブ 永井利治(代理)

大輪会 末澤事務局長(オブザーバー)

欠席委員

泉佐野市都市整備部 部長 松下義彦

◆議事

○報告案件

- ① 平成23年度運営会議開催計画・実績について
- ② 第6回パークレンジャー養成講座について

増田委員長

- ・イベントの電話対応は大変ではないか。

事務局

- ・前回のタケノコ掘りイベントは、とても人気ですぐに定員に達したため、電話対応が大変だった。広報のタイミングも自治体ごとに異なり、広報が届いた時点ですぐに申し込みをされた方であっても、定員に達したためのお断りしないといけないケースがあった。

増田委員長

- ・応募時に不公平感が出ないように配慮いただきたい。場合によっては「抽選」という形をとることも必要である。
- ・養成講座については、日根荘園の話も重要である。そのあたりを含めて講座をしていくと地域にあった講座内容になると思う。

③パーククラブ活動報告（8～9月）について

増田委員長

- ・パーククラブで何か困っていることはないか。

殿元委員

- ・最近、草刈り作業ばかりになっていることが気になっている。このまま、草刈り作業が続くと会員のモチベーションが下がってしまうことが心配である。草刈り作業以外に何か楽しめる活動をしていかないといけない。
- ・園路周辺の管理、レンジャー広場、水辺の広場の管理を優先して行っている。それができれば、棚田や果樹の育成にも手を広げたいと考えている。しかし、現状は園路の確保だけでも難しい状況である。そこで、来年度は、園路や広場の管理が行き届いてなくても、棚田1枚の管理を楽しみとして実施していきたいと考えている。

西台委員

- ・私たちのグループでは、管理作業を定期的に行っているが、その合間に親睦会を実施して会員内の交流を促している。
- ・小学生の遠足や観察会等のイベントも効果的と考える。これは、日常的な管理作業とは異なるため、楽しい作業になると思う。

増田委員長

- ・来園者と楽しむイベントなどのプログラムは、パーククラブの楽しみのひとつになり得るのではないかと考える。また、自然の素材を使って何かをつくる創作活動も楽しいことだと思うので、是非とも実施していただきたい。
- ・泉佐野丘陵緑地では、イベント時に使う火の装置（炉）はあるのか。

事務局

- ・イベントの都度、ドラム缶を切ったものを設置して使用している。

増田委員長

- ・消防訓練をしてもよいのではないかと。訓練も、森の中で機材を運ぶ等の目新しい訓練もある。そういう内容の訓練を楽しみながら進めるとよいのではないかと。
- ・パーククラブではこのような消防訓練をしていないのか。

殿元委員

- ・消防訓練はないが、消火器の場所等を消防士と安全確認をしたことはある。

下村委員

- ・消防訓練は子どもたちを呼ぶイベントして可能か。

増田委員長

- ・パーククラブと大阪府とで訓練としてやるべきだろう。

4. 協議案件

①パークセンターの実施設計について

増田委員長

- ・成果としてはどうか。

嘉名委員

- ・柱無しの空間をつくるのは難しい。パーティションなどを使って柱を活かす方向でその合間をうまく使うような空間デザインにしてはどうか。
- ・木質ラーメン構造であれば、12m スパンくらいまでは柱をとばすことが可能である。しかし、一方でコストが上がる。予算を鑑みて、柱をなくす必要があるのかを検討することが必要である。基本的には柱を活かしていく方向で良いと考えている。
- ・今回の建物は、屋上緑化や太陽光発電等があり、木造の割に柱に荷重がかかっている。耐震も含め、構造計算が重要である。軸組はその点が不安である。

殿元委員

- ・新たな案は、ボランティアルームの位置が変わってきている。これは、以前の案でいくのか、今回の案でいくのかを決めるということによいのか。

増田委員長

- ・改善案として今回の案が提案されているので、どちらの案でいくということではない。例えば、カウンターはボランティアだけではなく、府の職員も顔を出せるような形が望ましいと考え、今回の案が提案されている。新たな案について検討いただきたい。

前中委員

- ・草屋根と腰屋根の境界部が気になる。例えば、換気用の部分に植物が伸びて入り込むという可能性はないのか。
- ・腰屋根は雨がどの部分まで入り込むのか。また、散水スプリンクラーがどのあたりまで屋根に入ってくるのか。それによって、草屋根の草の生え方が変わってくるので、十分に検討いただきたい。

事務局

- ・換気の部分はオープンではないので、草木はもちろんのこと、虫も入ってこないようなつくりになっている。
- ・ディティールはこれから検証していきたい。

増田委員長

- ・太陽光パネルは青色が一般的であるが、熱効率のことを踏まえつつ、色味を考えることも必要である。
- ・機械室は必要ないか。

事務局

- ・太陽光パネルの色味は事務局内部で検討したい。
- ・機械室は北側の書庫南に空調の室外機の設置を考えている。

増田委員長

- ・ガス、電気、下水道は引く予定なのか。

事務局

- ・電気、下水道すべて引く予定である。

弘本委員

- ・省エネルギーの時代に、単に空調などで処理するというより、人を迎える装置としてまき・炭のストーブやペレットストーブ等の再生可能なエネルギーの使用を検討したほうがよい。

増田委員長

- ・広場の火の炉と同じように、屋内の木質ペレットのストーブなどを、予算との関係と併せて考えていただきたい。

事務局

- ・事務室のオープンカウンターがあるが、これは空調の効率を考えてガラス張りにしようと考えているが、ビジターホールや多目的スペースについては、自然換気が主となることを想定している。

増田委員長

- ・細かい話になるが、自然換気で行くのであれば、雨戸や網戸がいるのではないか。

下村委員

- ・パークセンターは、「里の館」の外観イメージや機能とかけ離れないようにしたい。
- ・間伐材や竹炭など、この公園で生産された燃料を有効利用できるようにしたい。
- ・窓が多いが、本棚を置くことができるのか。また、ポスターやパネル、チラシを設置する場所はあるのか。

事務局

- ・オープンカウンターなので、本棚については、雑多な資料はあまり見えないような設えで検討したい。
- ・ポスターやパネル、チラシについては、柱を利用して可動式で設置したい。

増田委員長

- ・案を見ると、デッキ部に柱がないことに違和感を感じる。構造の問題だけではなく、デザイン上の問題として、デッキの柱はなくてもいいのか。あった方が落ち着く可能性もある。再度検討いただきたい。
- ・柱を用いる場合、展示用に柱を使うことができるような工夫やディテールを考えておきたい。
- ・構造はしっかりと検討してほしい。
- ・灌水、水仕舞を含め、設備関係も考えたい。また、廃材や間伐材の利用を含めた設備も考えていきたい。

下村委員

- ・屋根の植物の管理方法はどのように考えているのか。

増田委員長

- ・ボランティアルームの収納階段からのぼって、安全装置を身につけて管理を行うことになる。
- ・草屋根の草丈は公園の管理イメージに関わる問題である。どのような将来イメージを描くかによって変わってくるだろう。一度、絵を描いて検討したい。
- ・最後にもう一点だけ委員の方々に聞いておきたいことがある。床面がグランドレベルから 45cm 立ち上がっているが、それはよいのか。フロアの材は板張りであるということは了解いただけるのか。また、研修室も板張りでよいのかということも、委員の皆さんの意見を伺っておきたい。「郷の館」は座敷のような感じで仕上げているが、パークセンターは、理科実験室のような使い方もする可能性がある。そのあたりを検討したい。

事務局

- ・事務局内部でも再度検討したい。

②パーククラブのワークショップの現状について

③コラボレーション区域実施設計のすすめ方について

下村委員

- ・パーククラブのゾーニングは、「まだ決まっていないところがある」というゾーニングはとても良いことである。これからのパーククラブの組織体制や活動に合わせて、その結果をゾーニングにどんどん反映させていくのがよいと思う。1回で決めるのではなく、徐々に固めていく方法がこの公園で求め

られている方法だと感じた。

- ・大阪府立大学においても、公園のポテンシャルの評価を進めている。その成果は3月くらいになるが、3月以降に改めてゾーニングを考える機会をつくっていただけるとうれしい。また、次回の運営会議は、現地で行うことが予定されている。そのときにも意見交換をしたい。

増田委員長

- ・ゾーニングについて、今日の運営会議で何かを決めるということではない。ひとつの場所であっても活動も整備も相反する意見がある。もう少し整理してから、次回の運営会議で意見交換してもよいと思う。

前中委員

- ・公園内の要素は多様である。ゾーニングの考え方として、場所の使い方をひとつに絞るのではなく、相反する意見も両方を試していけるような進め方をしたい。特定の方向に固めるのではなく、いくつかの方向性を許容するような決め方を模索していきたい。

下村委員

- ・いつかの時点では、ゾーニングの方向性を明らかにしていけないといけない。この運営会議でも助言をいただければと思う。

増田委員長

- ・ゾーニングの色分けが複雑である。もう少しシンプルに表現したほうがよい。例えば、「活用」、「保全」、「保存」という方向性が出ていれば未詳地ではないはず。そのあたりをもっと議論してほしい。
- ・大阪府が行うゾーニングと実施設計は同じものではない。ゾーニングは長期スパンで考えるもの、実施設計は次年度の内容を短期で考えるもの。実施設計をどの部分から行っていくのか、優先順位を示した方がよい。行政が行う整備のスケジュールはどのように関わってくるのかを明らかにしないといけない。また、これらは単年度の工期ですべて管理するのか。

事務局

- ・次回、府としてコラボレーション区域においてどのような工事を考えているか、お示しいたします。

嘉名委員

- ・私ももう少し、ゾーニングをシンプルなものにした方がよいと思う。
- ・そろそろ、アクティビティのことも考えていけないといけない。使いこなしの専門家の意見も取り入れながら、パーククラブとは異なる視点でアクティビティのことを考えていくことが必要である。活動が大変にならない程度で、アクティビティのヒントを得ながら、活動を進めていくこともいいのではないかと思う。

弘本委員

- ・パーククラブと行政が協力しながら、環境を管理していくスタイルは、とても新しい取り組みをしているのだという気概のもと、楽しみながら活動を進めていかれるといいなと思う。

増田委員長

- ・追加区域の鳥類、昆虫調査について、今年度手を入れるエリアについて、調査を進めていくということも検討いただきたい。その方が効率がいいのではないかな。

西台委員

- ・幅広く活動を行うのではなく、狭い場所を決めて活動をしていくことを考えてもいいのではないかな。

増田委員長

- ・大きな目標としてゾーニングを決めていくことが必要であるが、一方で実際の作業場所については小さな場所を決めて活動を進めていくことも検討いただきたい。

④第4期（仮称）泉佐野丘陵緑地パークレンジャー養成講座について

⑤刈り払い機導入について

前中委員

- ・刈り払い機は、草刈りを効率的に行うということなので、機械の使用は賛成である。ただ、安全にはくれぐれも配慮していただきたい。
- ・それと除草と草地管理を混同しない方がよい。場所によっては、草刈りは根こそぎ取り除くのではなく、草が生えている状態がよい場合もあるのでそのあたりを考慮いただきたい。

殿元委員

- ・パーククラブの活動日が第1、第3土曜日に変更になった。第4期の募集を行う際には、そのあたりも考慮いただきたい。

増田委員長

- ・次年度の養成講座は、パーククラブが2コマもつことは可能か。パーククラブと受講生の交流する機会にもなると思う。

殿元委員

- ・講師となる人はいるので、パーククラブ内部で検討したい。

増田委員長

- ・養成講座だけではなく、パーククラブ会員を対象にしたスキルアップ講座のことも検討する時期にきているのではないかなと思う。

弘本委員

- ・資料づくりとして、パーククラブの活動が進行していることがわかるような表現を工夫されるとよい。

増田委員長

- ・どんなプロセスを経てゾーニングが進んでいるのかを整理しておきたい。それは貴重な資料になる。是非、協力コンサルタントと協力しながら資料づくりを進めていただきたい。

末澤事務局長

- ・パーククラブのフォロー体制をしっかりしたい。草刈り機の使用も来年度になってしまったが、迅速に対応できるような体制をつくっていただきたい。
- ・雨水の再利用の研究を全国規模で行っている。研究の素材として今回の施設を是非とも活用していただきたい。また、施設についてはツバメが棲みつくようなものにできたらと思う。
- ・アクティビティの観点から、車椅子の人が入ることができる散策路やコースの設定などが必要ではないかと思う。そうすることによって、平日でも利用の価値が高まってくるのではないかと思う。
- ・来場者やパーククラブ等公園内の動線の計画ができているのかを検討したい。
- ・任意購入するものは、まずは大輪会の企業を優先していただきたい。
- ・パークレンジャー養成講座の中に大輪会の PR を 15 分ほどのコマをいただきたい。

増田委員長

- ・建物は環境学習にも使えるという視点を入れた計画にしていきたい。
- ・動線の分離や車椅子対応については、十分に検討が必要である。すべての動線を分離したり、すべてを車椅子対応にするのではなく、人の手助けによって通ることができることも考えていきたい。

事務局

- ・機械の使用について、パーククラブの覚書きを修正したいと思う。

◆次回の会議日程

12月7日（水）13:30～16:30

泉佐野丘陵緑地